

日本語の世界
10

日本語を生きる

江苏工业学院图书馆
藏书章

井上ひさし

中央公論社



日本語の世界 10

日本語を生きる

定価一八〇〇円

昭和六十年六月二十日印刷
昭和六十年六月二十九日発行

編者 井上ひさし

発行者 嶋中鵬二

印刷者 山元 悟

発行所 中央公論社

〒104 東京都中央区京橋二丁目一七
番地 振替東京二二三四
©一九八五 検印廃止

ISBN4-12-401730-8

日本語を生きる
目次

現代の言語感覚

筒井康隆

3

一 語 例

あのですね どうも そうですね 極端（端的）に言えば やっぱり
その時点で と言いたい と言うと嘘になりますが わたしって意外と
よろしいんじゃないですか べつに ずばりうかがいますが ひとことと言
って あなたにとって〇〇とは とも言うのだろうか わけ ちゃんと
ひとこと 前向き

二 分 析

日本語と共通感覚——モノログ・ドラマ風に

中村雄二郎

49

〈哲学者N氏〉登場 「日本語を生きる」羽目 哲学の日本語 〈哲学者〉と
いう肩書 『てつがくのライオン』 幼児のための「考える」絵本 〈われ思
う〉と〈私は考える〉 翻訳はどこまで可能か 谷崎潤一郎の指摘 『作品と
しての社会科学』 耳で聞いてわかる言述 余所行でない日本語による哲学
共通感覚、神肉、コモン・センス 場面、場所、共同社会 幕切れ

意味接続の変様——カテゴリー越えの認識と表現

佐藤 信夫

97

- 擬人表現 1 修辭裝飾觀 擬人的認識 擬人表現 2 擬人表現 3 擬
物表現／実体化表現 擬人表現のような擬物表現のような：
- かいの連結 1 異質のことばつかいの連結 2 異質連立 意味のカテゴリ
1 連結の制限としての意味カテゴリー 1 連結の制限としての意味カテゴ
リ 2 カテゴリー越え 1 カテゴリー越え 2

國語元年

井上ひさし

139

日本語を生きる

現代の言語感覚

筒井康隆

一語例

今、日本中で語られ書かれていることばの中には、近頃特に会話や文章中に頻出するようになった奇妙なことばの使いかた、そしてそのことばの頻繁な反復があり、それらはそもそも奇妙なものでありながら多くの人による慣用によって見聞きする人がさほどの違和感を覚えなくなってしまうている。たとえば「あのですね」のような語りかけ、「どうも」のような何にでも応用のきく簡略化された挨拶、その他「そうですね」「極端（端的）に言えば」「やっぱり」「その時点で」「と言いたい」「と言うと嘘になります」「わたしって意外と」などである。どなたもご存じのことばばかりであろう。流行語のようでありながら流行語の如き話題性は持たず、かといって慣用句の如き複雑さや来歴もなく、しかもありありと現代を表現していることばである。中にはこうしたことばを濫発する有名人によって流行語にまでなってしまった「よろしいんじゃないですか」のような例もある。

ふだん多くの人がさほどの自覚もなしに使っているこうしたことばをとりあげ、それぞれが今の社会で重宝がられ、使用されている裏で、どのような現代人の心理が働いているかを探ってみ

るのがこの一文の目的である。そしてそれらのことばの多くにあきらかに共通する心理がもし見出せれば、現代人の意識をことばの側面から探ったということになり、また現代にいながら現代の性格を知ろうとすることにもなり得るだろう。

あのですね
最近よく耳にするこの語りかけのことばは、主に年少の者、目下の者が年長の人、

目上の人物に向かって語りかける際に使われる。まるで語頭と語尾だけで構成してまん中を全部省略したかに聞こえるこのちょっと異様なことばはいったいどのような心理状態から発せられ、どのような意味が含まれているのだろうか。今、「あのですね」と語りかけている人が相手に対してどういう意味内容を伝達させようとしているかを想像し、もう少し詳しく、同じ語りかけのことばに言い換えて書いてみると、だいたい次のようになる筈である。

まず最初に「あの」といってわたしはあなたに呼びかけました。つまりわたしはこれからあなたに話しかけようとするわけなのですがそのことはあなたにもよくおわかりの筈です。ところがわたしはうまく話せないのです。そのことはわたしが今「あのですね」というひどく長い語りかけのことばを言っていることからよくおわかりになると思います。ではなぜあなたの名前または役職名でもって「中村さん」とか「課長（先生）」とか呼ばないのかといいますと、わたしはそういう改まった呼びかたが好きではないし照れくさいし、あなたがそう呼ばれることを嫌っておられるかもしれないし、だいいちよそよそしくなるので気楽にお話することができませ

ん。改まった呼びかけかたをするとそのあともずっと改まった口調を続けなければならないでしょうし、わたしはそういう話しかたを今まであまりしたことがないのでできません。そもそまなげうまく話せないかというわたしはもとと目上の人に対してはうまく話せないところへもってきて、これからお話しすることはちょっとこみいって、そしてちょっと重要なことなのです。だから尚さら話しくいというわけですね。しかもその上そのちょっと重要なことというのはどちらかといえばあなたにとって重要なことではなくわたしにとって重要なことなのです。だからそのことに対してお怒りにならないでほしいのですがね。あなたのいそがしいことはよくわかっていますが、それがわかっているにかかわらず尚かつお話ししなければならぬほど、わたしにとって重要なことなのです。と同時に内容がわたしの話す能力を多少上まわって少しこみいっているためにわたしの話しかたがまわりくどくなったり言い間違えが多くなったりしますけど、そのことについてもお怒りにならないでほしいのですがね。つまりわたしがこれほどあなたの怒りを気にするということはそれだけあなたを恐れていて、またそれだけあなたの感情を尊重してもあるわけですから、尚さらあなたはそのようなわたしに対してお怒りになってはいけません。あなたがもしお怒りになるとわたしはますますあなたに対して話を正確に伝えられなくなりますよ。しかもそれはほとんどわたしの責任ではないのですよ。あなたがいつも怒る人だから、あるいはまたあなたが怒りっぽい人であるかのような印象をわたしにあたえるからいけないのです。という意味のことをわたしは今「あのですね」と言ったことによって、それからそう言ったあと

少し間を置いたことによって表現したつもりなのですがね。ですからそのことはもちろんあなたにはおわかりになりましたね。ね。おわかりですね。おわかりですね。

ここにあるのは相手に対する恐れであるが、その恐れの中には相手を怒らせることへの恐れだけではなく相手の怒りによって自分が傷つくことへのより大きな恐れもある。また相手への意図的な甘えもある。その甘えによって相手の怒りを少しでも緩和させようというわけである。前提として自分は口下手だから自分の言ったことに対し相手は怒るであろうという思いこみ、及び劣等感がある。ナルシズムも見られる。自分の話しかたや話の内容によってたびたび相手を怒らせた体験があり、怒りやすい目上の人物や口やかましい年長者を周囲に持っている、この語りがけがいつのまにか口ぐせになってしまう。しかし今やこの語りがけだけで怒ってしまう人物も存在する以上、この語りがけのことばが持つ違和感によって相手にあたえる軽い衝撃、一瞬思考を停止させる力は効果をなくしつつあると考えてよい。

どうも

「どうも」は通常、「ありがとう」「恐れいります」「恐縮」「すみません」「失礼」「ご迷惑をおかけしました」「ご無沙汰しました」などの儀礼的なことばの頭にくる筈だが、下が略されて「どうも」のみとなり、最近では「まことにこのたびは残念なことです」などの場合の「まことに」とか、「では失礼いたします」などの場合の「では」などの代用、及びそれ以下のことばを省略するために用いられている。現代、これほど濫用されていることばは他にあ

るまい。「どうも」をもう少ししていねいにした簡略語に、「どうも」の下へ似たような意味の「たいへん」や「いろいろ」をくつつけた「どうもたいへん」「どうもいろいろ」などがあり、ふざけたものに「どうもでした」などがある。何回も続けて「どうもどうもどうも」と言う場合はよりていねいであると同時にふざけてもいるという感じが表現でき、ぼくは時おり小説の中で「どうもどうもどうもどうもどうも」などと書いたりする。

もう今となつては「どうも」がどのような心理から発せられているのか、ほとんど分析のしようがなくなっている。ぼく自身つい意識せずに発している場合があり、この時の心理を自己分析しようとしても不可能である。「どうも」のあとにくるべきことはや場所柄や相手によって無数の意味をあたえることができるが、この場合はあくまで、日常挨拶がわりに使われている「どうも」に限り、その裏の意味を推測してみることにしよう。

あなたに対してここで何か儀礼的なことを言わなければならないのですがそうした古風な言いかたは現代的ではない上に、あなたにとつてもわたしと同じ言いかたで返事しなければならぬのは苦痛でしょう。ですからわたしはそれを省略させていただきます。あなたもわたしも、そんな古風な儀礼的なことばにこだわるような古くさい人間ではありませんね。そうですね。モダンな、シャープな現代人ですからね。そうですね。でも何か言わなければならないことだけはわたしにもわかっているのですよ。わたしは無教養な人間、または馬鹿ではないのですからね。

それは認めてくださいね。だって現代はスピードが大切です。儀礼的な挨拶などという自己満足によってある一定の速度で流れている現代的時間を停滞させるのは罪悪だともいえます。いやいやこれはあなたにわたしと同じ生活速度を強制しているのではないのですよ。わたしと同様あなたもいそがしいであろうことはよく承知しています。もし万一、現在あなたがいそがしくなかったとしても、あなたは自分のいそがしかった時を思い出してわたしを許してくださいさなければなりません。あなたはもしかするとわたしに儀礼的な古風な言いまわしのことをばを言おうとなさっていたのかもしれませんが。それをわたしが「どうも」と言うことによって封じてしまったのだとしても怒らないでくださいね。ほんとはわたしはそれが苦手なのです。だって周囲には風潮としてそのような言いかたをする日常に乏しいのだから当然わたしは馴れていないのです。みんなが「どうも」と言うのですからむしろそれに馴れることが現代人の義務でしょう。だいいちあなたとわたしとは〔ケース1〕または〔ケース2〕に続く、

〔ケース1〕そんな仲ではないでしょう。お互いによく知りあった間柄ですから儀礼的なことをばを使うとよそよそしくなりますし、かえって失礼になり、ふざけているように感じられても困りますからね。だいいち儀礼的なことをばを考えるのが面倒だしそれはお互いさまでしょう。

〔ケース2〕まだお互いをよく知らないのですからどういう儀礼的なことをばを交しあっているのかわかりません。ですからわたしが儀礼的なことをばを使わないからといって怒らないでください。あなただって「どうも」を使う時がある筈ですしその時の自分の心理を思い出した上でどうかわ

たしを許してください。いやまったく初対面というのはお互いに気を使うものですな。ですからこれ以上儀礼的なことばなどに気を使ったりしないよう気楽にやりましょうよ。

「ケース1」と「ケース2」の間にはさまざまな段階があるが、すべて相手に対する儀礼的言辞の省略の強要であるとして見てよいだろう。強要の背後にあるのは儀礼的な言辞を考えようとしない怠惰と、相手への甘えである。くり返すが、今やそういう気持はまったくないにかかわらず周囲からの影響で「どうも」を発している人は、このぼく自身も含めて非常に多いのである。しかし、「どうも」を発する背後に本来そういう要素があったのだということは、知らずしらず「どうも」と言ってしまう人にも常に意識されてよいのではないか。

そうですね

相手からいささかあらたまった口調で質問されたり意見を求められたりした時、この「そうですね」を発することによって、そのひと呼吸の間に答えを考えることができる。したがってテレビやラジオのインタヴューではしばしば耳にするし、気をつけて聞いていると実に多くの人が多く発している。自分では気づかぬうちに発していることもある。ぼく自身、ある公開の席でインタヴューを受け、「躁鬱質だそうですが、今は躁ですか鬱ですか」という質問について「そうですね」と言ってしまう、これを洒落と受けとった聴衆がどつと笑ったために驚き、それ以来このことばを特に強く意識するようになった。他の人の発する「そうですね」がたいへん気になりはじめたのもこの時からである。

「そうですね」は本来、質問した相手に気を持たせる効果を持っていた。ということは、そもそも他人に向かって発せられる質問というものは、質問者にとつてたいへん切実な問題に限られていて、どうでもいいような質問を濫発するのは非礼とされていたことになる。そして「そうですね」を発することによって、切実に答えを待ち望んでいる相手により期待を大きくさせたり苛立たせたりすることができた。つまりこの「そうですね」又は「そうですねあ」のひと呼吸は、本来老人性の自己主張であったと考えることができるのだ。というのは、たとえば老人が、特にひと前で何か答えねばならぬ時、何か喋らねばならぬ時、いや、そもそも何かを行わねばならぬ時に殊更のろのろと、ゆっくり間を置いてから喋ったり行ったりするのは、あなが強ち老化現象のせいだけではなく、自己の存在をより強く他に認めさせるための手段でもあるからだ。しかしこうした自己主張のための「そうですね」は、ことばが途切れて時間に空白を作ったりすれば罪惡視される現代、どちらかといえば自己主張の仮面をかぶった時間かせぎの方法となっている。どうでもいい質問、矢継ぎ早の質問、どうにでもとれる質問、そもそも答えをさほど期待していない質問というのは、むしろ質問者の自己主張であり、解答者がとまどって時間の空白を作ってしまうのを暗黙のうちに責めることによって優位に立とうとするものである。これに対する、次に書くが如き防衛と反撃が現代における「そうですね」である。

その問いに答えることはたいへん難しい。簡単な質問なのにと思われるかもしれないが簡単な